

入する花崗岩類及びその周辺に分布する。

東部の変質帯は閃緑岩質岩体及びその周辺の白亜系中に発達する珪化帯からなる。また、その周辺部はプロピライト化変質帯となっている。東端部の閃緑斑岩周辺の白亜系玄武岩質溶岩中には孔雀石及び珪孔雀石からなる数条の細脈が発達する。本鉱化帯は既知鉱徴地の Camiña (Cu)に相当する。

中央部の変質帯は、ほぼN40W方向に配列する石英斑岩中に発達する強いセリサイト化変質-黄鉄鉱強鉱染帯からなる。また、その周辺の閃緑岩質岩及び白亜系はプロピライト化変質-黄鉄鉱弱鉱染帯となっている。本鉱化帯付近には既知鉱徴地の Quistagama (Cu)があるが確認できなかった。上記石英斑岩はカミーニャ沢(Quebrada de Camiña)の両岸で第三系-第四系イグニンプライトに直接覆われている。北岸のイグニンプライト直下の白亜系安山岩中には直線状を呈する乳白色粗粒結晶質の石英細脈が認められる。

中央部の変質帯の北西方約4kmには、花崗閃緑岩中にCu鉱徴地>Nama)が報告されている。岩石地化学異常として、東部変質帯でCu-Zn-As異常が検出された。

上記の各変質帯・鉱化帯及び貫入岩類は、空中磁気の間強度帯、中波長低異常域及び短波長高異常の近傍若しくは内部に位置している。

#### 2-14 カミーニャ北東地域

本地域の地質図をFig. 2-2-67に、模式地質柱状図をFig. 2-2-68に、変質鉱物分布図をFig. 2-2-69に、岩石地化学異常分布図をFig. 2-2-70にそれぞれ示した。

本地域の地質は、第三系、上部第三系-第四系及び第四系からなる。

第三系は新第三系中新統-鮮新統のイグニンプライト(流紋岩質溶結凝灰岩)・凝灰質砂岩からなる。

上部新第三系-第四系は、玄武岩～安山岩質溶岩からなる。プラグドームを形成する安山岩のK-Ar法年代(全岩)として $10.4 \pm 0.4$  Maを得た。

第四系は沖積層からなる。

本地域には広範囲に白色化変質が発達し、変質帯はNW-SE方向に配列する。これらの変質帯は、セリサイト・カオリン・珪化からなり、自然硫黄を伴うことがある。

岩石地化学異常として注目されるのは、As-Hg高異常である。

上記の変質帯は、空中磁気の間強度帯内に分布し、さらに、中波長高異常の周縁部かつ、短波長高異常の近傍に位置している。

#### 2-15 ミニミニ地域

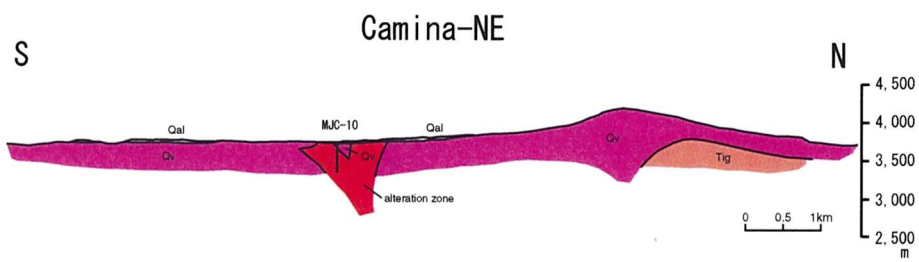
本地域の地質図をFig. 2-2-71に、模式地質柱状図をFig. 2-2-72にそれぞれ示した。

本地域の地質は、上部新第三系-第四系及び第四系からなる。

上部新第三系-第四系は、下位より、礫岩、イグニンプライト(軽石凝灰岩・溶結凝灰岩・







Geologic Time		Columnar Section	Lithology	Intrusives	Mineralization
CENOZOIC	QUATERNARY HOLOCENE	Qal	Alluvium		Epithermal type ↑ (kaolin, silica, sericite)
	QUATERNARY ~ TERTIARY	Qv	Basalt~ andesite lava		
	TERTIARY MIOCENE	Tig	Tuffaceous ss. Welded tuff		

Fig.2-2-68 Schematic Stratigraphic Columns and Profiles of the Area to the Northeast of Camina